



COFFEE BREAK & DISCUSSION

5 . 気象・水象判断



- 5.1 気象判断の基本
- 5.2 低気圧と前線
- 5.3 偏西風, 海陸風と凧
- 5.4 地形と風, 水域での特性
- 5.5 局地的な突風, 雷など

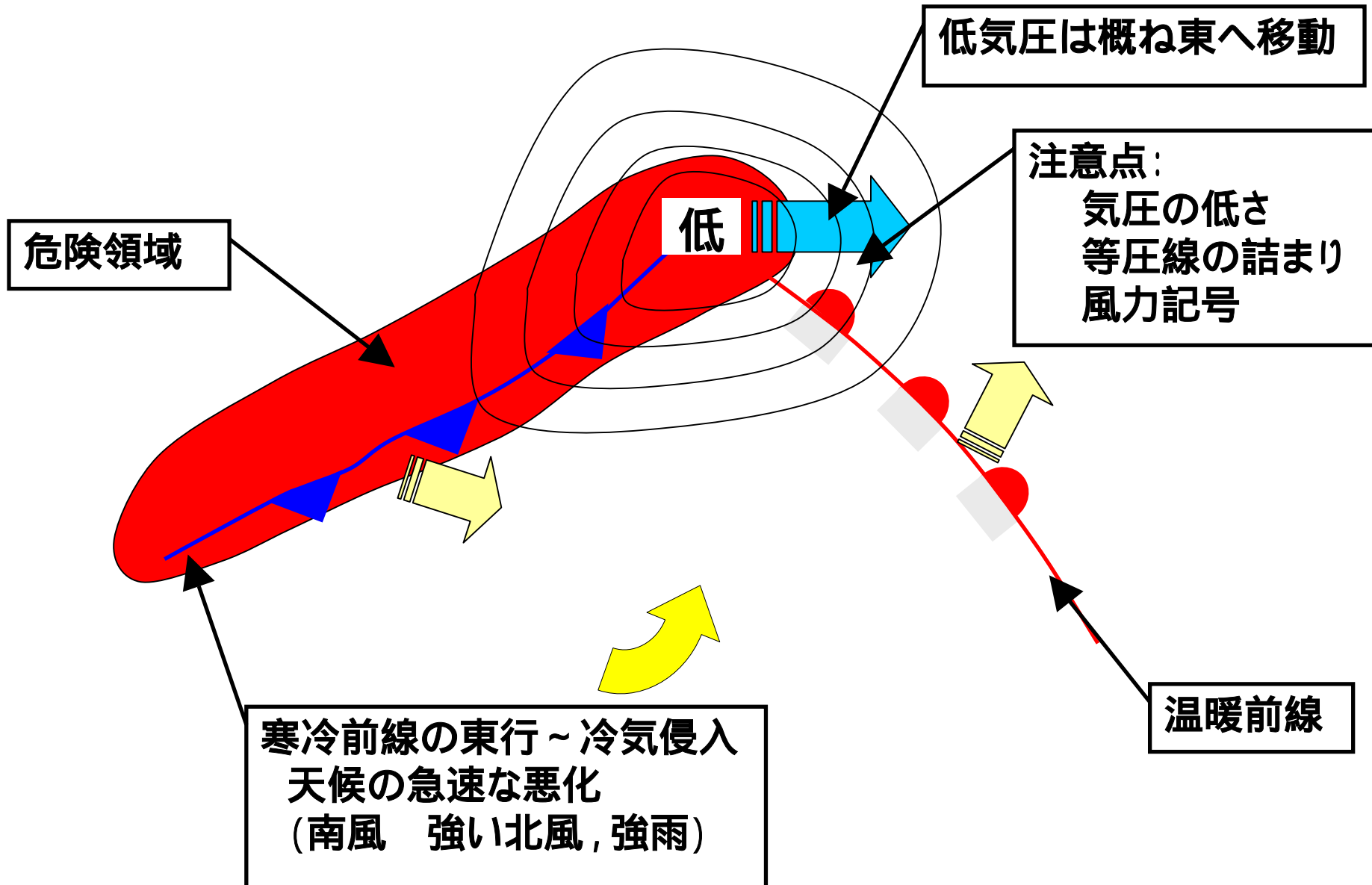
5.1 天候判断の基本



The Story of World Rowingより、
この強風でも、この艇とクルーなら大丈夫
(?) 艇種、クルーによる航行能力や現
在の波・風の状態から、少し先の状態を
知る能力が求められる。

- 艇種により航行能力は異なる。「白波が出ているから乗艇しない」では現行のシェル艇種では心もとない判断基準。白波が出ていない段階での乗艇可否の判断が求められる。
- 現在の天候が乗艇可能かどうかの判断は、退避(着岸)所要時間で決定できる(通常練習では30分先程度で良いが、確実性が求められる)
- ただし茨戸事故のように、突風の危険も無視できない。


5.2 低気圧と前線(天気図の見方)




5.3 偏西風, 海陸風と凧



陸(土)は温まりやすく冷めやすい, 海(水)は温まりにくく冷めにくい.

日中は陸が先に暖まって上昇気流が発生. 海から陸へ風が吹く. 

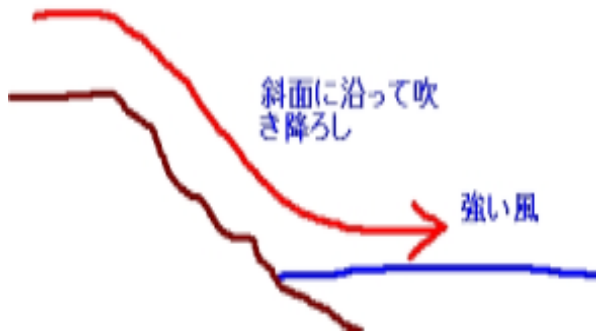
夜間は陸が先に冷えて下降気流が発生. 陸から海へ「陸風」が吹く. 

海風・陸風の切り替えが凧(なぎ). 瀬戸内海では夏季の晴れの日, 海陸風と凧がはっきりする.

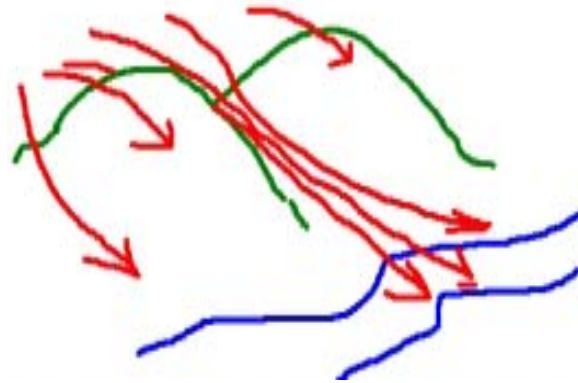
大きな気圧配置 × 海陸風 × 局地の事情(地形等)で水域に吹く風が決まる.

5.4 地形と風, 水域の特性

高地の冷気



高地の冷気が斜面に沿って吹き降りると、強い風が吹きます。



山の鞍部や谷に沿って、「風の道」ができて強い風を吹かせることがあります。



橋の下では、水面と橋げたの狭い隙間を抜ける風が強い風となります。

風や流れの変化は、理由があります。

風には揺らぎがあるので、10分以上の平均の変化で判断しましょう。

水域周辺の地形や人工構造物によって、水域特有の風が吹きます。

自然の声に耳を傾ける素直な気持ちで、いつも風や波を観察することで、次第にその意味がわかってきます。そして少し先の予測ができるようになります。

しかし外れることももちろんあります。予測を悲観側にシフトしましょう。「あぶないと思って中止したが、大丈夫だった」という方向の外れは問題ありません。

5.5 局地的な突風，雷など



雷の接近は，雷光と雷鳴の時間間隔で判断．約5秒以内は危険．

天候の急変は，前線の通過だけではありません．夏の積乱雲などによる急激な上昇気流が，ダウンバースト(下降気流による突風)を発生させます．

雷も要注意です．南アフリカでは8 + に落雷・死亡事例があります．確率は低いとはいえ，水上では無防備．落雷の直撃は致命的になるため，雷鳴が近づく気配があったら，すぐに橋の下に入るか，艇庫に帰りましょう．